

強者の戦略

【解答】

問1 共に白人居住地域が不正確であるため、パーカー通り中心の生活空間となっている。図1の生徒は自宅付近や第二次・第三次産業につながる工場・貸事務所を印象に残し、将来像を考慮しながら通学しているが、図2の生徒は、バーや農家店、公園などが印象に残っており、将来像をあいまいにし日々付近をうろうろしている。(147字)

問2



解説

中国の伝統的人口抑制政策である一人っ子政策が廃止されることになりましたね。近年は徐々に緩和されてきて、片親が一人っ子であれば、2人目まで生んでもいいという段階まで来ていましたが、ここで急に廃止されるとは思ってもいませんでした。正に青天の霹靂！今年度の入試問題で一人っ子政策を扱っていた大学は改変にてんてこまいじゃないですかね。大学教授たちの面倒くさそうな顔が目浮かぶようです。

話は変わりますが、文明の発達は恐ろしいですね。1996年出題当時では考えられないような解き方(?)ができるようになりましたよ。グーグルアースのストリートビューです。小一時間ぐらいかけてパーカー通りを見まくって、ここが貸事務所かーとか、確かに倉庫っぽいなー、ジョンの店の場所いまは駐車場やん、とか思いながら堪能しました。実際は、メンタルマップなので、何がどう正しいかは不明なのですが、ある程度イメージを持って2人のメンタル

マップを考察できるようになりました。みなさんもよっぽどひまだったらやってみてください。図3が、上が北で描かれていないので最初は困惑しますよ。

それではメンタルマップの解説に参りましょう！

まず図1の生徒のメンタルマップから考えていきましょう。図1は**非常に正確に描かれている**ことが分かります。パーカー通りの南側と北側がおおよそ3:1ぐらいの幅で描かれており、図3に照らし合わせてみてもしっくりきます。この描き方はある程度、**白人の主流な行動空間である南側にもたびたび訪れた経験の裏打ち**と思います。ウェントワース研究所という具体的な建物やミッション計画地区という地域名も書かれているし、何だったら貸事務所まで書かれています。この生徒はもしかしたら将来的に、白人地域に店や事務所を開いて商売を始めようと考えているぐらいの人物かも知れません。高校生の時に貸事務所とかみなさんは地図に描きますか？相当未来のことを考えている生徒なのでしょう。

そして、パーカー通り近辺もよく描かれています。ローズの店・空地・ジョンの店・倉庫以外にも、スレンチス通り(正確にはプレンティス通り)の奥につながる通りまで描かれています。工場と駐車場も正確に描かれています。よくこの通りを歩いていることが分かりますし、工場と倉庫の関係(第二次産業)を見据えています。後でも述べますが、図2の生徒の場合は、工場部分は「他の人々」で描かれ、ジョンの店の隣の倉庫も描かれていません。図1の生徒の印象に残っているということは、常に周りを見ているという可能性以上に、将来の自分の働き口としての軽い認識もあるのかもしれません。

さて、ハンチントン通りの詳細な描かれ方についても考えねばならないでしょう。この商業高校(正確にはボストン商業高校)に通っているから詳細に描かれているのでしょうか？難しいところですね。この問題は2人の生徒のメンタルマップから作成されています。こういう研究は、**同じような境遇にいる**

強者の戦略

のに関わらずこうもメンタルマップが違うように描かれるのか、というギャップを明らかにするために行われるのではないかと考えられます。だとすれば、通っている学校が同じなら2人共に商業高校が描かれてもいいのに、商業高校は図1のみで図2には描かれていません。共に学校が描かれているのは、南東部にあるトビン高校(正確にはトービン高校)だけです。よって、2人の生徒は共にトビン高校に通っているとみなすべきです。とすれば、ハンチントン通りが図1で詳細に描かれている理由は、図1の生徒がこの付近に居住しているから、ということになります(それ以外を考え始めると理由が多岐に渡りすぎて特定する意味を失います)。ちなみに、トレモント通りが矢印で示されていることも気になります。スミス通りの向こうのトレモント通りまで行動範囲が広がっていることが推察されます。

まとめると、図1の生徒は、毎日規則正しくハンチントン通りの自宅からスミス通りのトビン高校に通っている生徒である。そして、白人居住区や東部なども含めて行動範囲が広く、自分の将来のことも考えながら生活している優等生タイプという判断ができます。

次に、図2の生徒のメンタルマップを探っていきましょう。こちらは図の面積の3分の1ぐらいがパーカー通りで占められています。行動範囲のほとんどがパーカー通りということになりますね。ただ、図の不正確さは図1よりもひどいです。ハンチントンも通りの名前としての認識まで至っていないので、あいまいにハンチントンとしか書かれていません。ワード通りも書かれておらず、ウェントワース研究所の部分もミッションヒル計画地区と一緒に描かれています。ただし、図1の生徒よりも実は細かい内容が書かれている部分があります。「ミッションヒル」という名称です。図1の生徒は「ミッション」で止まっています。これは図2の生徒の中で「ミッションヒル」が相対的に大きな価値を持っていることの現れです。「ミッションヒル」は「ミッションヒ

ル公園」につながります。通っている高校のすぐ横の公園です。図1の生徒はトビン高校という具体的な名前まで書きながら、「ミッションヒル」とは書いていません。つまり、図2の生徒はよく「ミッションヒル公園」を訪れているのでしょう。想像の域を超えませんが、学校の退屈な授業の合間に公園で自由な時間を過ごしているのかも知れないし、授業中に公園を眺めてほっこりしているのかも知れません。学校の正確な位置を示していないことから、大して学校に重きを置いておらず、毎日通っているかどうかとも怪しい状況です。

次にパーカー通りの描かれ方を見てみます。図1の生徒には描かれていないバーが目に入ります。アメリカの文化は知りませんが、お酒が飲めるんでしょうかね、バーが心の中で大きな位置を占めているようです。不良っぽさがだんだん確定してくる感じがします。また、この人は「カンバーランド農業(事)店」も描いています。工業よりも農業に多少なりとも興味があるようです。一般的な感覚で言えば、農業労働者の方が工業労働者よりも所得が低くなりそうですから、自分にやれそうな仕事は農業ぐらいかなと考えているかも知れません。

まとめると、図2の生徒は、家の位置はよく分からず、毎日学校に行っているかも分からない、公園で暇つぶしをしている可能性がある生徒である。白人居住地域は自分が行くところではないと考えており、専らパーカー通りをうろつき、農家になることをうつつら予見しつつ、バーなどで背伸びをした遊びに興じている。

ジョンの店に関してはまとめ切れませんでしたが、優等生のメンタルにも、不良のメンタルにも何か印象を残している店ですよね。両者を惹き付けるジョンの人間力は非常に高いと見積もっていいでしょう(笑)。

この生徒のメンタルマップを150字でまとめるのは至難の業ですが、解答を読んでおいてください。

強者の戦略

問2 実際に自分でメンタルマップを書く問題です。自分の身に置き換えて考えてみましょう。想像してみてください。小学校まで大阪に住んでいたとし、その後中学校時代に京都府で暮らし、高校に入ってからまた大阪で暮らし始め、大学入学と共に東京に移り住んで、久しぶりに中学校の近くの京都を訪れた後にメンタルマップを書く感じです。

東京に住んだことがないので分からないですけど、半年住んだからと言って近隣を詳しく書ける気はしません。このタイ人も、ロサンゼルスではタイ人のために東奔西走しており、優雅に街を闊歩している状況ではないでしょう。不正確な地図になるでしょうね。次に、住み慣れた大阪についてはどうでしょうか？生まれてから12年間も住み続ければ、寝起き10秒でも、近隣を細かく書けますよね。なので、タイ近隣は詳細に描かれるはずですが。しかも、このタイ人は東アジア局で日本関係の仕事を担当していたわけですから、中国・韓国・台湾辺りも常に見てきたので正確な地図になると考えられます。残るは京都の書き方です。当然他の県より正確に描けるとは思います。ただ、3年間という短い期間なので、すべて覚えているということはないでしょう。タイ人の中の東京のイメージで考えると、東京近辺は正確な輪郭になり、思い出に残る桜も書いてしまうかも知れません。

次回はどんな問題になるか分かりませんが、またお会いしましょう！